

2020. 1. 25

こんにちは わ ～るど

No. 72

半田国際交流協会だより

1月5日 日本語教室にて

書き初め体験をしました

新年最初の日本語教室では、毎年、書き初め体験を行っています。今年も、ベトナム・中国・フィリピン・カンボジアなど約30名の生徒が、先生に教えてもらいながら、思い思いの言葉を慣れない筆で丁寧に書きました。



半田市・徐州市ホストタウン交流 徐州市公式訪問団来半

半田市と友好都市の徐州市訪問団が、昨年12月12日に市役所を訪れました。今年開催される東京オリンピックで、半田市のホストタウン相手国が中国のため、徐州市副市長の呉新福(ごしんぷく)氏ら6名と、今後の交流行事の打ち合わせをしました。呉氏は、「熱烈歓迎に感謝します。民間レベルの交流を深めていきたい」と26年間の交流を振り返りながら話をされました。



剪紙(伝統的な中国切り絵細工)の記念品をいただきました。



第16回 インターナショナルポトラックパーティ

食べ物を持ち寄って、いろいろな国のの人たちと楽しく交流をしましょう! 芸妓さんも遊びに来てくれますよ!

日 時: 2020年3月8日(日) 12:00~14:00

場 所: 半田市福祉文化会館 2階 視聴覚室

参加費: 個人会員・外国人・高校生以下 無料

一般 500円

※参加者は食べ物を一品持ち寄ってください。

申込み: 半田国際交流協会

締 切: 2020年2月21日(金)

半田国際交流協会にご入会ください!

会員募集

年会費	個人会員	2,000円
	団体会員	10,000円
	法人会員(1口 5,000円)	
	・従業員数 1名~29名	1口以上
	・従業員数 30名~49名	2口以上
	・従業員数 50名~	4口以上
申込先:	半田国際交流協会(雁宿ホール内1階)	
TEL:	0569-26-1929	FAX: 0569-26-1992
E-mail:	hia@poplar.ocn.ne.jp	
HP:	http://www.handakokusai.aichi.jp	

オーストラリア大規模森林火災! 姉妹都市ポートマッコーリーへの募金にご協力をお願いします。

半田市との姉妹都市 オーストラリア ポートマッコーリーがあるニューサウスウェールズ州では、昨年から大規模な森林火災が続いています。現場の森林はコアラの生息地で、ポートマッコーリー・コアラ病院には、救出されたコアラが連日運び込まれています。今も火災は続いており、消火活動も難航しています。少しでも力になりたいと思いますので、募金にご協力をお願いいたします。集まったお金は姉妹都市委員会に託し、コアラ救助等の支援に使用していただきます。



受付期間 2020年3月末まで(半田国際交流協会事務局に募金箱があります。)

お振込み【銀行名】三菱UFJ銀行 半田支店 【口座番号】普通3072739

【口座名義】半田国際交流協会 会長 松石奉之

※「ボキン」と振込依頼人名の前に入力、または振込用紙の通信欄に記入してください。

17th
世界の人たちとあそぼう!
2019 10/20 Sun.
「こんにちはーとフェスティバル」

2019年10月20日（日）、第17回「こんにちはーとフェスティバル」を半田赤レンガ建物にて開催しました。

たくさんの方にご来場いただき、9カ国の交流ブースや、国際色豊かなパフォーマンスステージなどをお楽しみいただきました。



ラテンフォルクローレ (EKEKOS)



チアダンス&チアリーディング
(ソシオ成岩スポーツクラブ)



フラダンス (ブルメリア・フラガール)



フュージョンバリーダンス (TarA)



フラメンコ (TAKAGIフラメンコ)



インド古典音楽
(吉田こうき【シタール】× 大表史明【タブラ】)



カポエイラ (カポエイラ デンテマルオ)



ジャワダンス
(SUSANA)



尺八 (矢野司空)



ベトナムのダンス
(日本語学習生)



アラブ音楽&バリーダンス
(名古屋アラブ音楽同好会 with バリーダンス)



サンバ (オ・ペイシ・キ・ヒ)



バリダンス (スルヤムトゥ)



「半田の生活、おしえてコーナー」

このコーナーでは、4か国の方々から日々の生活の中で感じる、よかったこと、困ったことなどを聞き取りました。皆さんからは、特に、言語での困りごとや、生活情報の取得方法 (SNS)、日本に来た目的・半田やその近隣に住んでいる理由などを聞かせていただきました。皆さんの困りごとを一緒に考え、日本人に限らず、半田に住む外国人の皆さんにも、より住みやすいまちとなるよう努力していきます。

(半田市秘書課 犬塚)



半田東高校生ボランティア



来場者の皆さんには、
各国ブースをまわる
あいさつラリーに
挑戦してもらいました。

／なますて！／



Nepal



／ぼあたるじ！／



Brazil



Viet Nam



／しんちゃあ！／



Peru



／お〜ら！／



USA



／はろ〜！／

／ちょむいあつぷ すお〜！／

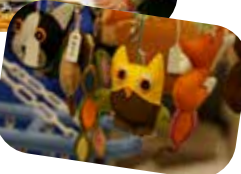


Cambodia



／にい〜はお！／

China



／すらまっとしあん！／



Indonesia



／あ〜わぼわ〜ん！／



Sri Lanka



JCI

(公社)半田青年会議所

／こんにちは！／



SDGsの目標の1つ、
「安全な水」をアジア各国に
届けるという事業をしています。

SDGs (持続可能な開発目標) …
国連で定められた、2030年までに
達成すべき17の目標。



アンケートの声

- ・いろいろな国の文化に触れることができてうれしかったです。
- ・世界のめずらしい食べ物をたくさんいただきました。
- ・挨拶ゲームを通して色々な国の人々と触れ合えたのが楽しかったです。
- ・子どもと楽しめるイベントが増えると友達が誘いやすいです。
- ・タイや台湾、フィリピン辺りのブースがありそうでないのが不思議。
- ・とてもよかったので、もっと多くの人に来てもらえるように宣伝してほしい。
- ・外のステージを高くしてほしいです。とてもすてきだったので皆が見えるようにして頂けたらうれしいです！
- ・楽しく外国の人たちと話ができて、またいろいろな催しもあって良かったです。これからもよろしく！
- ・様々な国の皆さんと交流する機会は数少ないので、このような活動があるのはとてもいいことだと感じました。
- ・子どもが世界の大きさに気づいてくれたらうれしいです。また夢のあるイベントを企画してくださいね。
- ・あいさつも意外と難しいけれど、一言あいさつしたとたん愛着がわいてきた。
- ・外国人の困りごとの相談窓口を増やしてほしい。





在住外国人との共生を考える

グスクマ

こんにちはわーど

No. 72

— 松石会長と城間さん夫妻との対談より —

約40年前、半田国際交流協会が発足したころは、市民の間では国際“交流”というよりは“理解”ということが問題でした。しかし今は状況が大きく変わり、増え続ける外国籍市民とどう共生していくか、が大きな問題となっています。そこで、お互いがいかに理解し合うかその方法を探りたいと思います。



ブラジル出身の城間ロベルトソイチさん（日系3世）、沖縄出身のグスクマ利香子さん夫妻は、2019年10月「こんにちはわーどフェスティバル」の「生活おしえてコーナー」に立ち寄っていただいたご夫婦です。ブラジル人共同体の責任者で、日本人とブラジル人との橋渡しの役割を果たしています。今回は、日本語を理解はできるけど話すのはまだ苦手というご主人に代わり、奥様の利香子さんに話をさせていただきました。

グスクマ 私たちブラジル人共同体は、教会を通して、日本生活の中で悩んでいる人、困っている人の話を聞いて出来る限りの手助けやアドバイスをしています。

松石 外国人の方が増えて来て、地域としても共生社会を作っていこうという動きはあるものの、実際の生活面ではいろいろとトラブルも起きているようですが・・・。

グスクマ 身近な問題では、文化の違いからくる騒音問題です。ブラジルでは特に週末は、時間を気にせず皆でワイワイ楽しく過ごすことが当たり前ののです。ただ、日本だとそれは近所迷惑になるので、ルールは守るよう言葉で直接伝えることで理解してもらい、お互いが暮らしやすい環境を保てるのではないのでしょうか。



松石 地域で声をかけたり、コミュニティ活動に誘ったり、また雇用する企業が外国人を「一労働者」として扱うだけではなく、生活面でアドバイスしたりするということも必要ですね。アイデンティティやルーツは大事にした上で、日本で生活する以上習慣や感覚のところは、ある意味、日本人的になってほしいという気持ちがあります。

グスクマ もちろんそれが望ましいことです。言葉で伝え合うことによってお互いを理解すれば、歩みよめることは難しいことではありません。私たちはもっと日本社会に溶け込んで暮らしたいと思っています。

松石 子どもの教育については？

グスクマ 親が日本で働くことによって生活が豊かになったのは事実で、お金をより多く得るために家族の時間が減っているのも事実です。日本語教育で育った子どもたちに、日本語は子どもだけ学ばばいい、ではなく、親も子から言葉を学ぶことで互いに日本語を理解でき、家族の絆もより深まると思います。

松石 半田赤レンガ建物でブラジル人のお祭りがありましたね。正直、そのにぎやかさや盛り上がり「すごいなあ、とても日本人は入っていけないな」という印象を受けました。

グスクマ 国民的祭りである“Festa Junina”（6月祭）は、伝統文化を知ってもらい、楽しんでもらうために開催しましたが、自分たちの想像以上に多くのブラジル人が集まってしまい、日本語表示も少なかったために入りにくい雰囲気になってしまったのではないかと思います。その反省をふまえて、徹底したルールのもとで、次回は誰でも楽しんでもらえるよう努めていきたいです。そしてもう一つ、フェスタ開催には目的があります。来ていただいたお客様の中に、何か問題や困りごとを抱えている人がいれば、私たち共同体の存在を知ってもらうことで、一人でも多くの人を救えるのではないかと考えています。



松石

例えばそういうイベントも、一緒に主催することで、やり方や文化を融合させながら、お互いに理解を深めることもできると思います。同じ国の人同士で固まるのではなく、交流を積み重ねていけば、多文化共生社会につながっていくと思います。

▲利香子さん(左)とロベルトさん(中央)と松石会長(右)

